

第52回 中央区政 世論調査

概要版

令和4年4月実施

【調査の項目】

- | | |
|---------------|----------------------|
| 1 定住性 | 9 築地魚河岸 |
| 2 防災対策 | 10 受動喫煙防止対策 |
| 3 健康診査 | 11 デジタル技術を活用した区民サービス |
| 4 高齢者施策 | 12 広報 |
| 5 子育て支援 | 13 環境問題 |
| 6 防犯対策 | 14 公園の魅力向上 |
| 7 スポーツ | 15 今後のまちづくり |
| 8 地域のコミュニティ活動 | 16 施策の要望・評価 |

【調査対象】中央区に居住する満18歳以上の男女個人（外国籍の方を除く）

【対象者】2,000人

【抽出方法】無作為抽出法

令和4年4月1日現在の住民基本台帳に登録された
満18歳以上の男女138,531人から一定の割合で系統的に抽出

【調査方法】郵送法（郵送に準じた配布 - 郵送回収）

【調査時期】令和4年4月26日（火）～6月6日（月）

【調査機関】株式会社エスピー一研

【回収結果】回収数 1,004 回収率 50.2%

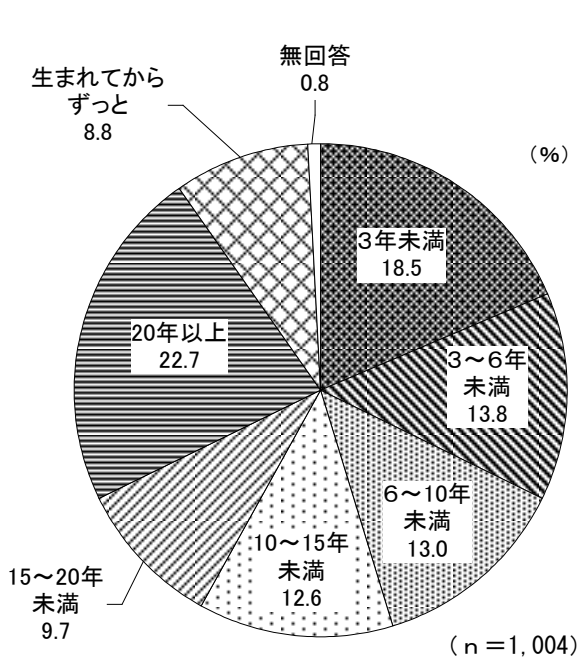


1 定住性

■ 居住年数

『短期居住者』（「3年未満」と「3～6年未満」の合計）は32.3%で3割を超えている。『中期居住者』（「6～10年未満」、「10～15年未満」および「15～20年未満」の3つの合計）は35.3%で3割台半ば、『長期居住者』（「20年以上」と「生まれてからずっと」の合計）は31.5%で3割を超えている。

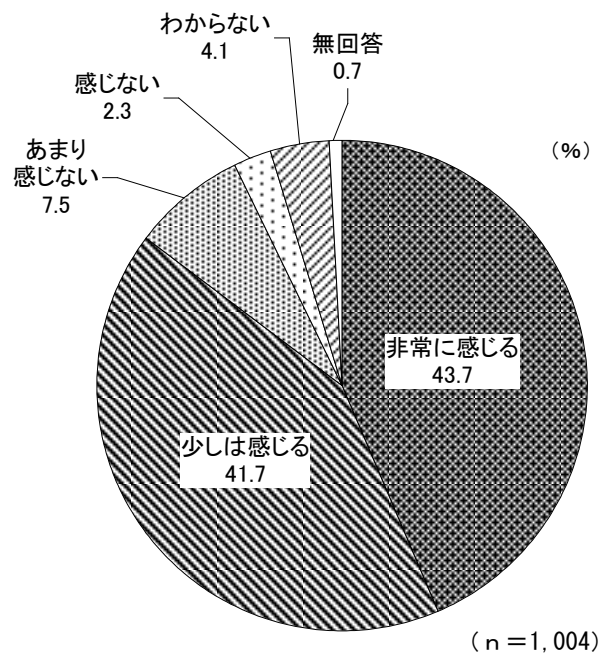
過去の調査結果と比較すると、平成26年以降大きな傾向の違いはみられない。



■ 愛着心

『感じる』（「非常に感じる」と「少しは感じる」の合計）は85.4%で8割台半ばとなっている。一方、『感じない』（「あまり感じない」と「感じない」の合計）は9.8%で1割となっている。

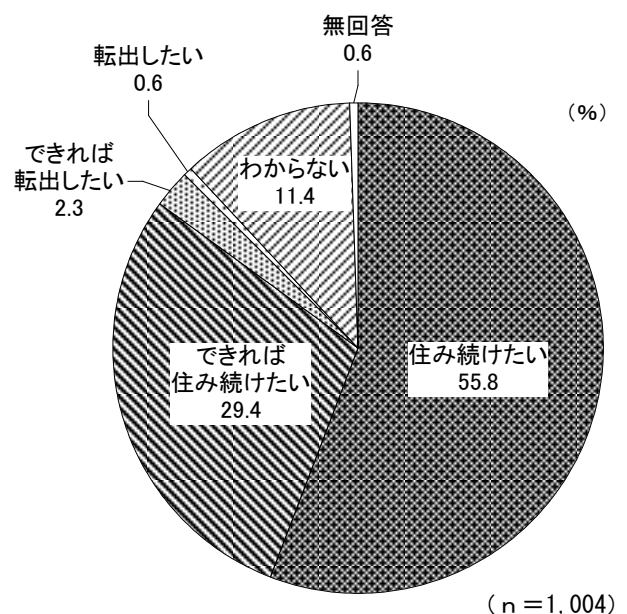
過去の調査結果と比較すると、『感じる』は平成18年以降8割台で推移している。



■ 定住意向

『定住意向』（「住み続けたい」と「できれば住み続けたい」の合計）は85.2%で8割台半ばとなっている。一方、『転出意向』（「できれば転出したい」と「転出したい」の合計）は2.9%にとどまっている。

過去の調査結果と比較すると、『定住意向』は昭和63年以降8割台で推移している。

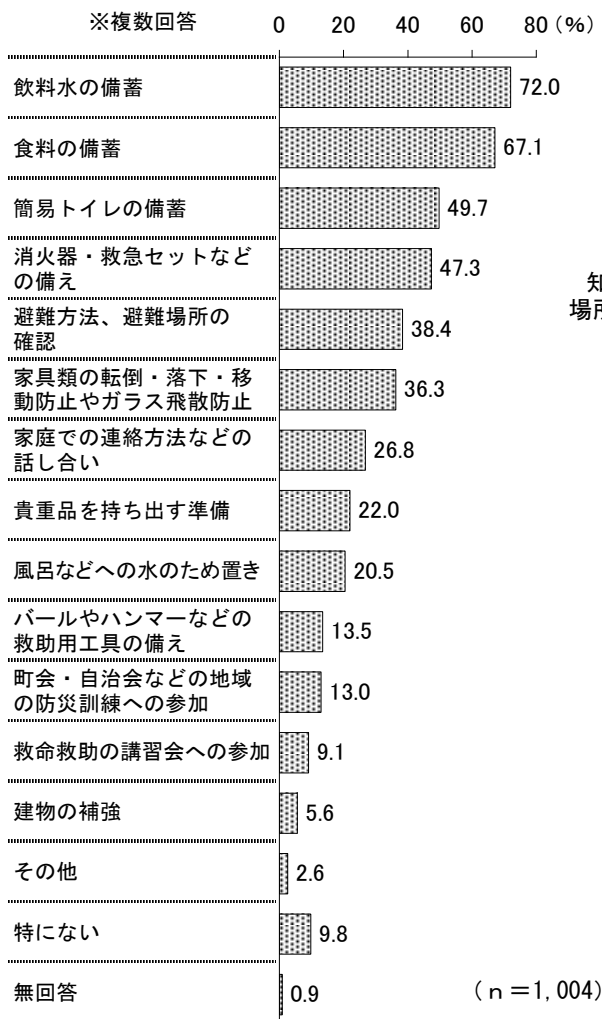


2 防災対策

■家庭での災害に対する備え

「飲料水の備蓄」(72.0%) が7割を超えて最も高くなっている。次いで、「食料の備蓄」(67.1%)、「簡易トイレの備蓄」(49.7%)、「消火器・救急セットなどの備え」(47.3%)、「避難方法、避難場所の確認」(38.4%)、「家具類の転倒・落下・移動防止やガラス飛散防止」(36.3%) などとなっている。

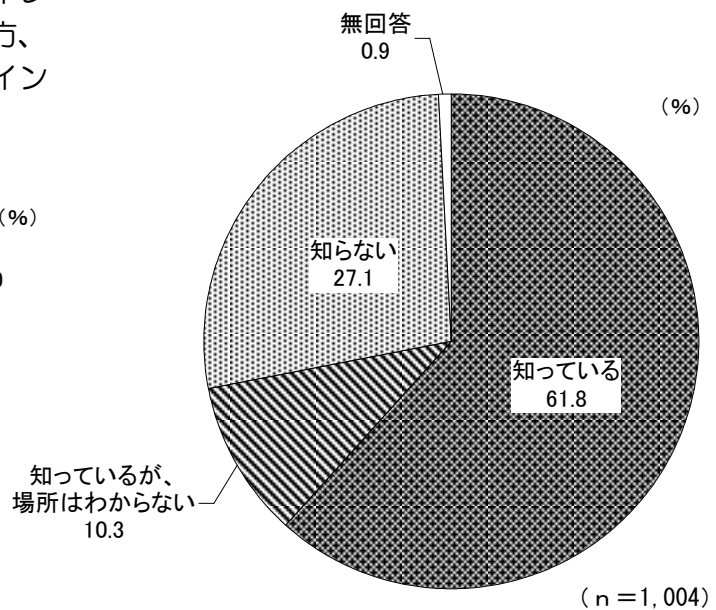
昨年の調査結果と比較すると、「簡易トイレの備蓄」は3.1ポイント増加している。一方、「消火器・救急セットなどの備え」は3.3ポイント減少している。



■防災拠点の認知度

「知っている」(61.8%) が6割を超えて最も高くなっている。「知っているが、場所はわからない」(10.3%) は1割で、「知らない」(27.1%) は3割近くとなっている。

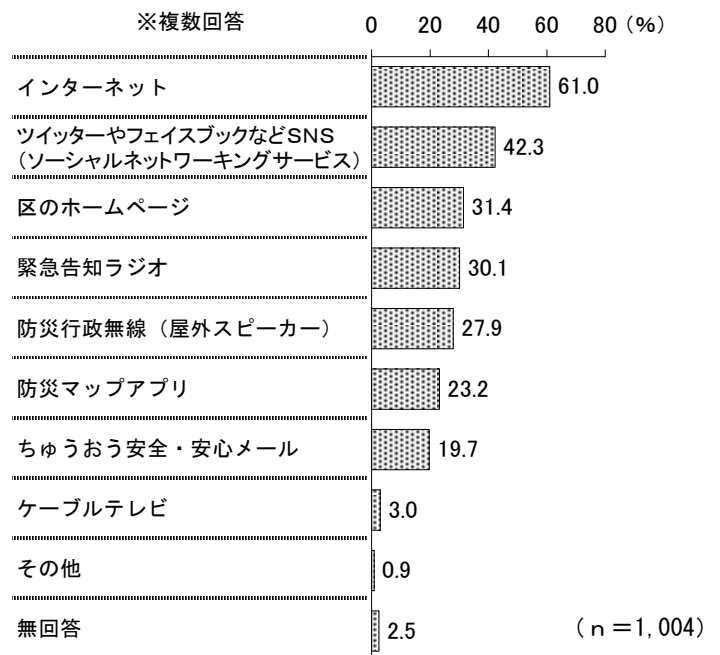
過去の調査結果と比較すると、「知っている」は平成28年以降6割台で推移している。



■災害情報を得る手段として有効だと思うもの

「インターネット」(61.0%)が6割を超えて最も高くなっている。次いで、「ツイッターやフェイスブックなどSNS(ソーシャルネットワーキングサービス)」(42.3%)、「区のホームページ」(31.4%)、「緊急告知ラジオ」(30.1%)、「防災行政無線(屋外スピーカー)」(27.9%)などとなっている。

昨年の調査結果と比較すると、「インターネット」は8.0ポイント増加している。一方、「区のホームページ」は11.2ポイント、「防災行政無線(屋外スピーカー)」は5.9ポイント、それぞれ減少している。

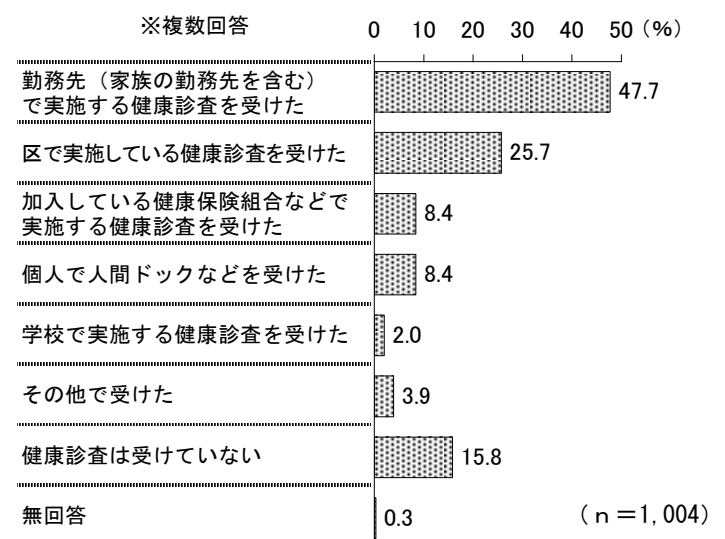


3 健康診査

■健康診査の受診状況

「勤務先(家族の勤務先を含む)で実施する健康診査を受けた」(47.7%)が5割近くで最も高くなっている。次いで、「区で実施している健康診査を受けた」(25.7%)、「加入している健康保険組合などで実施する健康診査を受けた」(8.4%)、「個人で人間ドックなどを受けた」(8.4%)などとなっている。一方、「健康診査は受けていない」(15.8%)は1割台半ばとなっている。

昨年の調査結果と比較すると、「区で実施している健康診査を受けた」は3.9ポイント増加している。

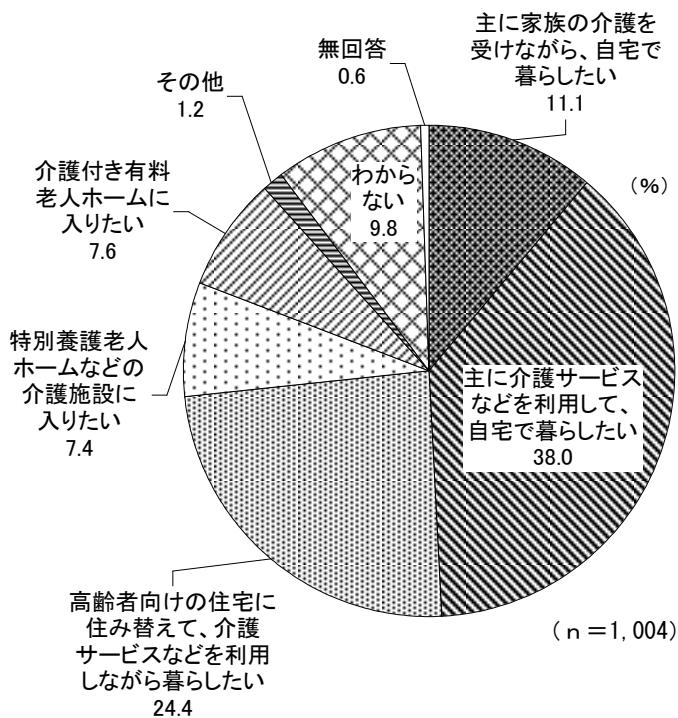


4 高齢者施策

■要介護時における暮らし方

「主に介護サービスなどを利用して、自宅で暮らしたい」(38.0%)が4割近くで最も高くなっている。次いで、「高齢者向けの住宅に住み替えて、介護サービスなどを利用しながら暮らしたい」(24.4%)、「主に家族の介護を受けながら、自宅で暮らしたい」(11.1%)、「介護付き有料老人ホームに入りたい」(7.6%)などとなっている。

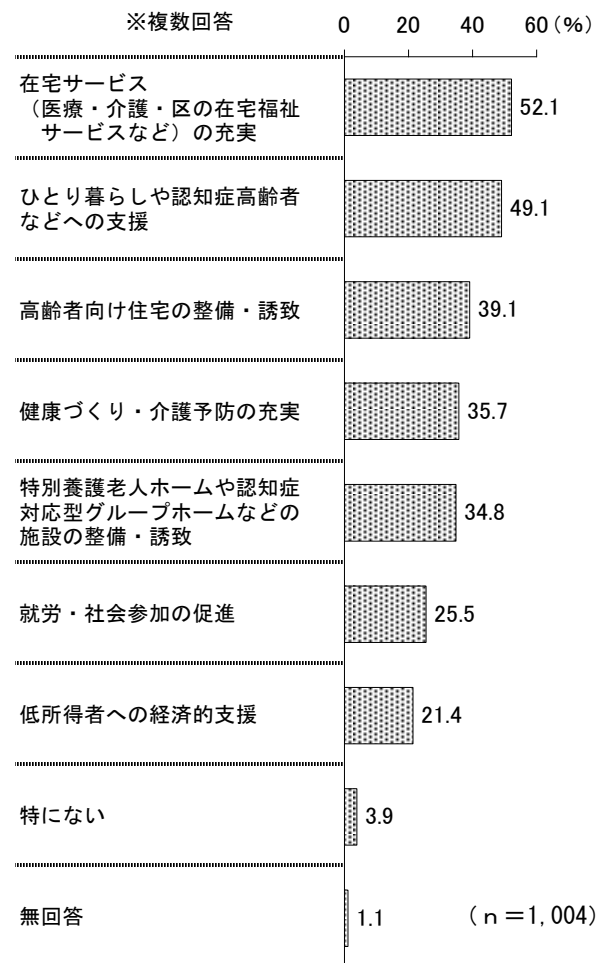
過去の調査結果と比較すると、「主に介護サービスなどを利用して、自宅で暮らしたい」は平成17年以降3割台で推移しており、今回調査が過去最高の割合となっている。



■区に望む高齢者保健福祉サービス

「在宅サービス(医療・介護・区の在宅福祉サービスなど)の充実」(52.1%)が5割を超えて最も高くなっている。次いで、「ひとり暮らしや認知症高齢者などへの支援」(49.1%)、「高齢者向け住宅の整備・誘致」(39.1%)、「健康づくり・介護予防の充実」(35.7%)、「特別養護老人ホームや認知症対応型グループホームなどの施設の整備・誘致」(34.8%)などとなっている。

昨年の調査結果と比較すると、「就労・社会参加の促進」は3.0ポイント減少している。

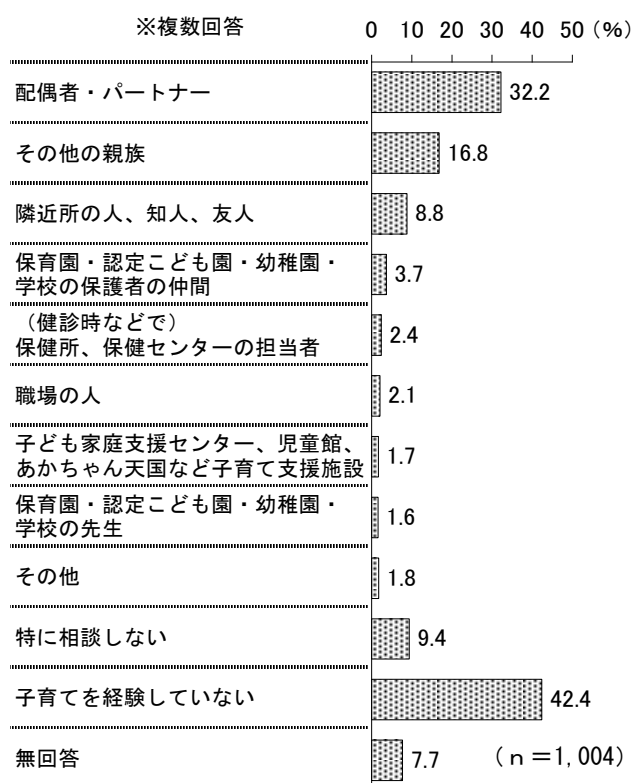


5 子育て支援

■ 子育てに関する悩みの相談

「配偶者・パートナー」(32.2%)が3割を超えて最も高くなっている。次いで、「その他の親族」(16.8%)、「隣近所の人、知人、友人」(8.8%)、「保育園・認定こども園・幼稚園・学校の保護者の仲間」(3.7%)などとなっている。

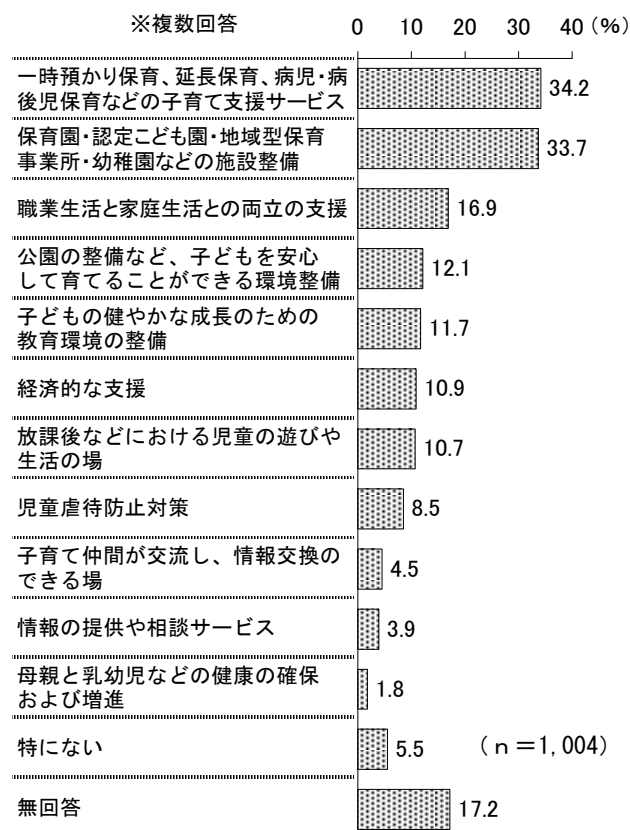
昨年の調査結果と比較すると、「配偶者・パートナー」は5.1ポイント減少している。



■ 重要と考える子育て支援策

「一時預かり保育、延長保育、病児・病後児保育などの子育て支援サービス」(34.2%)が3割台半ばで最も高くなっている。次いで、「保育園・認定こども園・地域型保育事業所・幼稚園などの施設整備」(33.7%)、「職業生活と家庭生活との両立の支援」(16.9%)、「公園の整備など、子どもを安心して育てることができる環境整備」(12.1%)、「子どもの健やかな成長のための教育環境の整備」(11.7%)などとなっている。

昨年の調査結果と比較すると、「公園の整備など、子どもを安心して育てることができる環境整備」は3.3ポイント減少している。

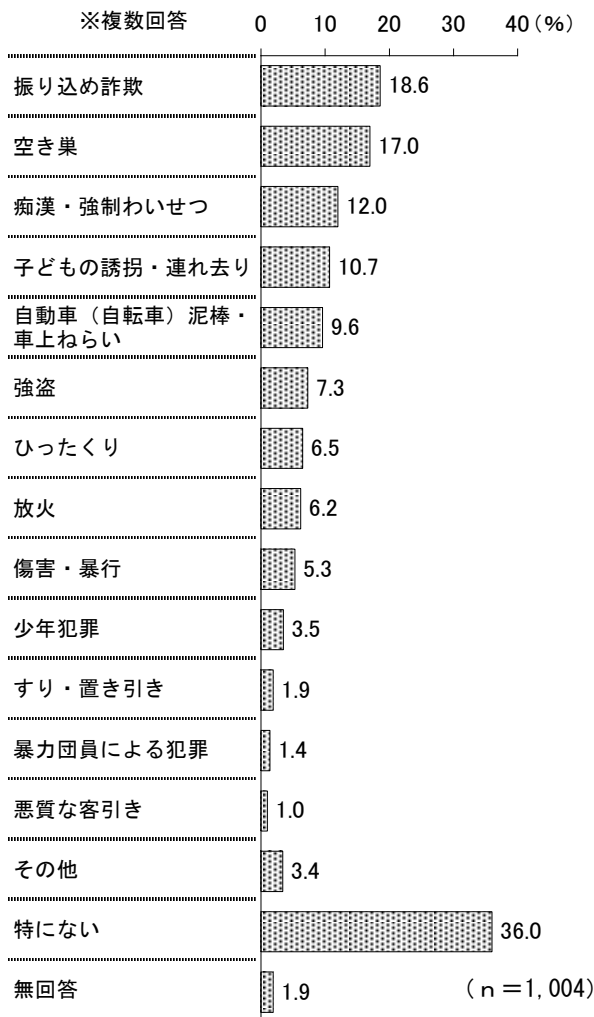


6 防犯対策

■不安に感じる犯罪

「振り込め詐欺」(18.6%)が2割近くで最も高くなっている。次いで、「空き巣」(17.0%)、「痴漢・強制わいせつ」(12.0%)、「子どもの誘拐・連れ去り」(10.7%)、「自動車(自転車)泥棒・車上ねらい」(9.6%)などとなっている。一方、「特にない」(36.0%)は3割台半ばとなっている。

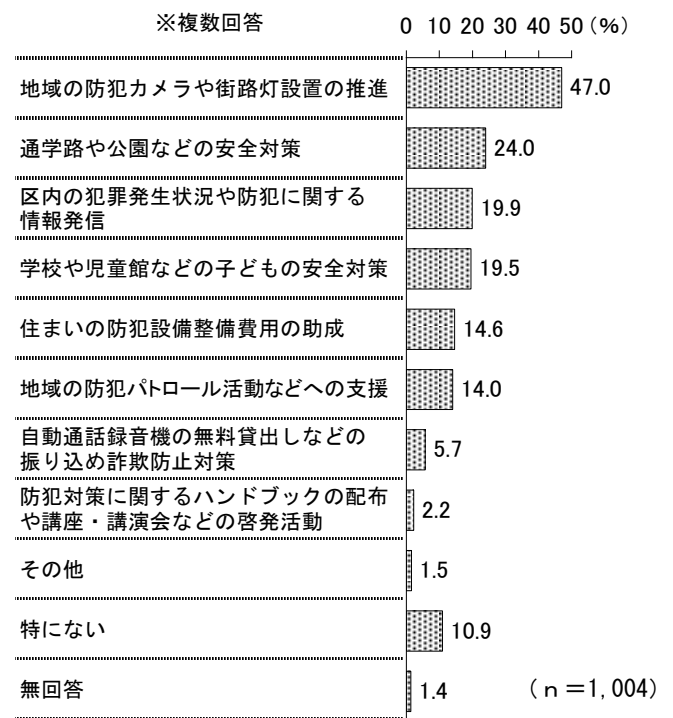
昨年の調査結果と比較すると、大きな傾向の違いはみられない。



■区に特に力を入れてほしい施策

「地域の防犯カメラや街路灯設置の推進」(47.0%)が5割近くで最も高くなっている。次いで、「通学路や公園などの安全対策」(24.0%)、「区内の犯罪発生状況や防犯に関する情報発信」(19.9%)、「学校や児童館などの子どもの安全対策」(19.5%)、「住まいの防犯設備整備費用の助成」(14.6%)などとなっている。

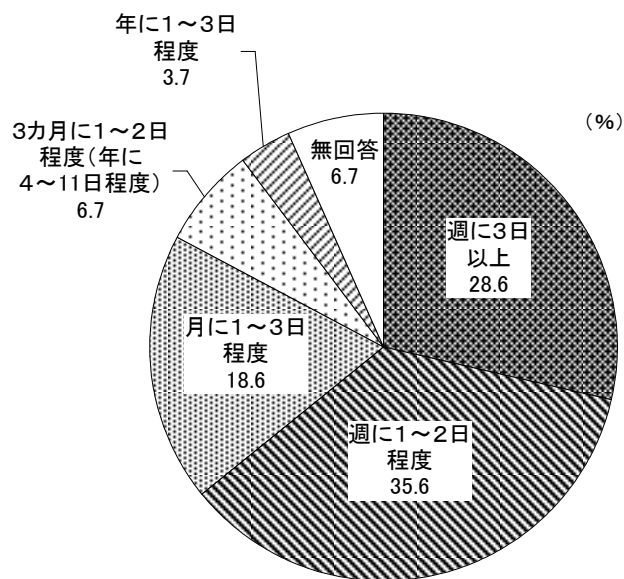
昨年の調査結果と比較すると、「区内の犯罪発生状況や防犯に関する情報発信」は4.3ポイント減少している。



7 スポーツ

■過去1年間に行ったスポーツや運動の頻度

過去1年間にいずれかのスポーツや運動をしたことがあると回答した方のスポーツや運動の頻度は、「週に1～2日程度」(35.6%)が3割台半ばで最も高くなっている。次いで、「週に3日以上」(28.6%)、「月に1～3日程度」(18.6%)、「3カ月に1～2日程度(年に4～11日程度)」(6.7%)などとなっている。

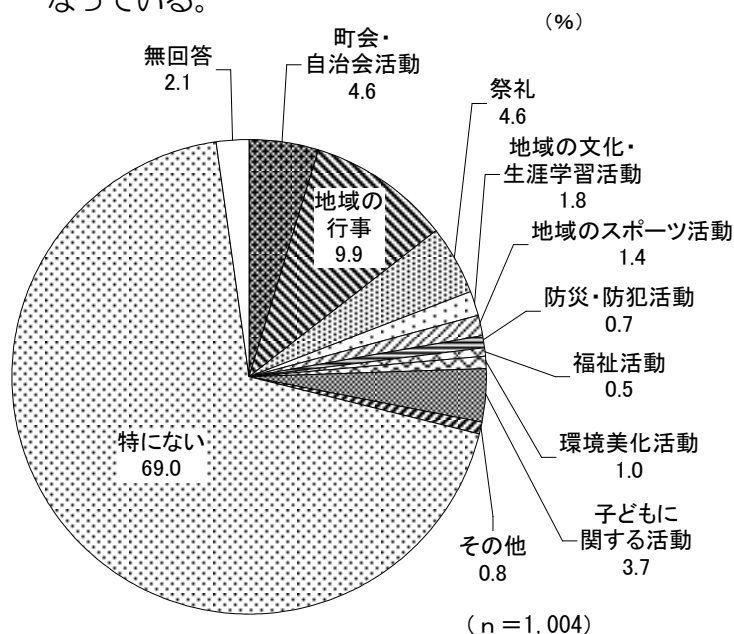


(n=845)

8 地域のコミュニティ活動

■新型コロナ感染症拡大以前のコミュニティ活動

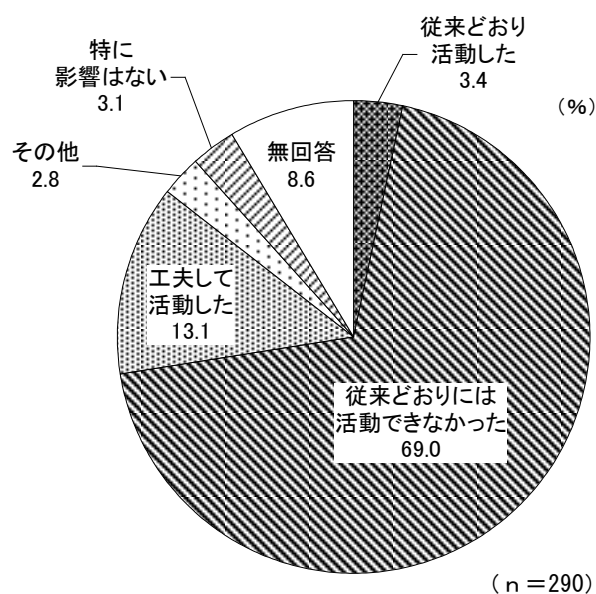
「地域の行事(盆踊り、縁日、もちつきへの参加など)」(9.9%)が1割で最も高くなっている。次いで、「町会・自治会活動(回覧板、文書配布、情報発信など)」(4.6%)、「祭礼(おみこし・山車への参加など)」(4.6%)などとなっている。一方、「特にない」(69.0%)は約7割となっている。



(n=1,004)

■コロナ禍での影響

コミュニティ活動に参加していたと回答した方のコロナ禍での影響は、「従来どおりには活動できなかった」(69.0%)が約7割で最も高くなっている。次いで、「工夫して活動した」(13.1%)、「従来どおり活動した」(3.4%)などとなっている。



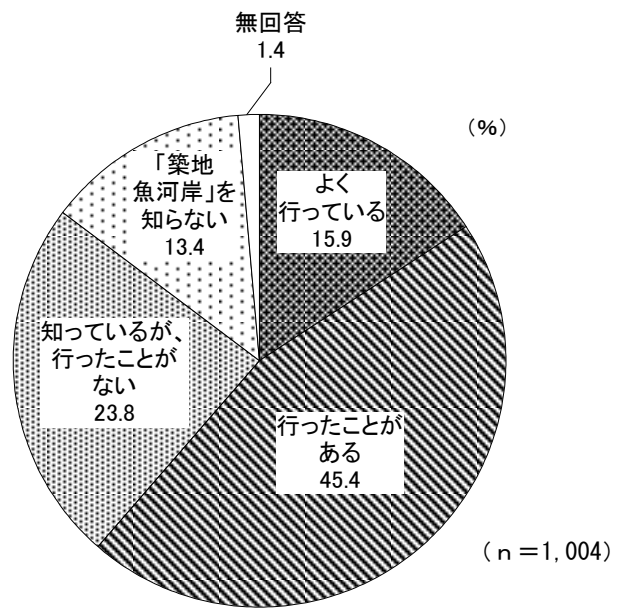
(n=290)

9 築地魚河岸

■ 「築地魚河岸」への来場経験

「よく行っている」(15.9%)と「行ったことがある」(45.4%)を合わせた『来場経験あり』(61.3%)が6割を超えている。一方、「知っているが、行ったことがない」(23.8%)は2割を超え、「『築地魚河岸』を知らない」(13.4%)は1割を超えている。

過去の調査結果と比較すると、『来場経験あり』は令和3年と比べて5.4ポイント増加しており、今回調査が過去最高の割合となっている。

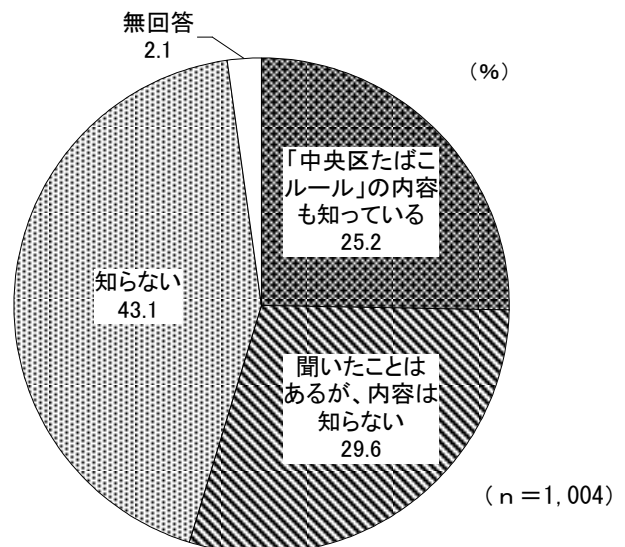


10 受動喫煙防止対策

■ 「中央区たばこルール」の認知度

「『中央区たばこルール』の内容も知っている」(25.2%)が2割台半ばとなっている。「聞いたことはあるが、内容は知らない」(29.6%)は3割、「知らない」(43.1%)は4割を超えている。

昨年の調査結果と比較すると、大きな傾向の違いはみられない。

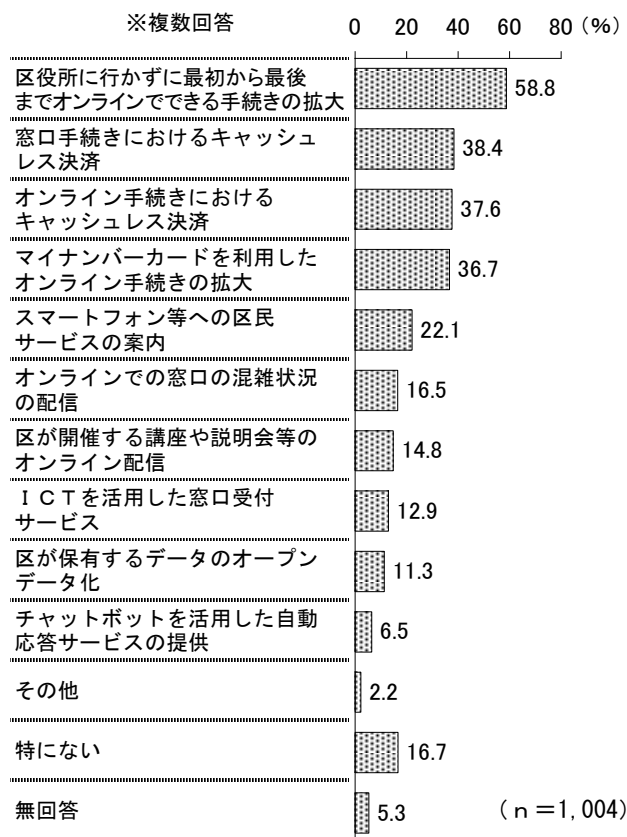


11 デジタル技術を活用した区民サービス

■区に進めてほしいデジタル技術を活用した区民サービス

「区役所に行かずに最初から最後までオンラインでできる手続きの拡大」(58.8%)が6割近くで最も高くなっている。次いで、「窓口手続きにおけるキャッシュレス決済」(38.4%)、「オンライン手続きにおけるキャッシュレス決済」(37.6%)、「マイナンバーカードを利用したオンライン手続きの拡大」(36.7%)、「スマートフォン等への区民サービスの案内」(22.1%)などとなっている。

昨年の調査結果と比較すると、「マイナンバーカードを利用したオンライン手続きの拡大」は3.6ポイント、「窓口手続きにおけるキャッシュレス決済」は3.1ポイント、それぞれ増加している。一方、「区役所に行かずに最初から最後までオンラインでできる手続きの拡大」は5.9ポイント、「オンラインでの窓口の混雑状況の配信」は5.7ポイント、それぞれ減少している。

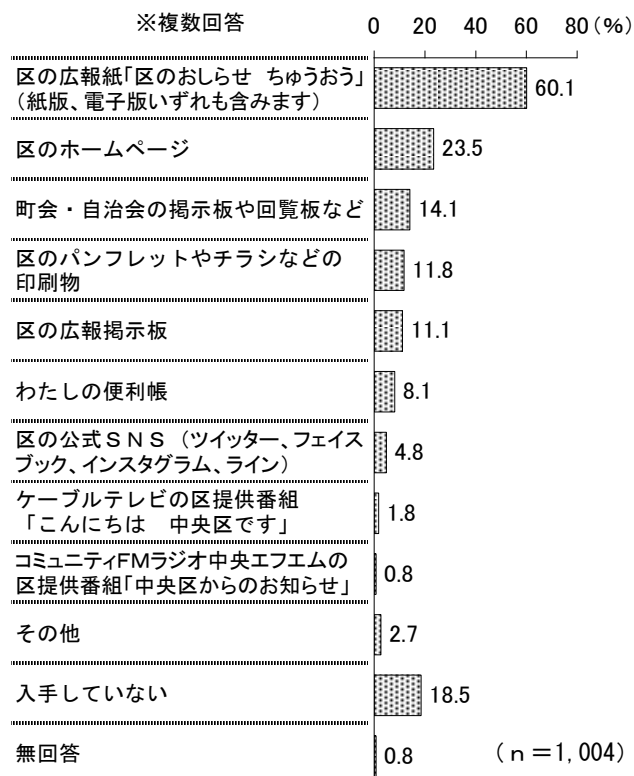


12 広報

■区政情報を得る手段

「区の広報紙『区のおしらせ ちゅうおう』（紙版、電子版いずれも含みます）」(60.1%)が6割で最も高くなっている。次いで、「区のホームページ」(23.5%)、「町会・自治会の掲示板や回覧板など」(14.1%)、「区のパンフレットやチラシなどの印刷物」(11.8%)、「区の広報掲示板」(11.1%)などとなっている。一方、「入手していない」(18.5%)は2割近くとなっている。

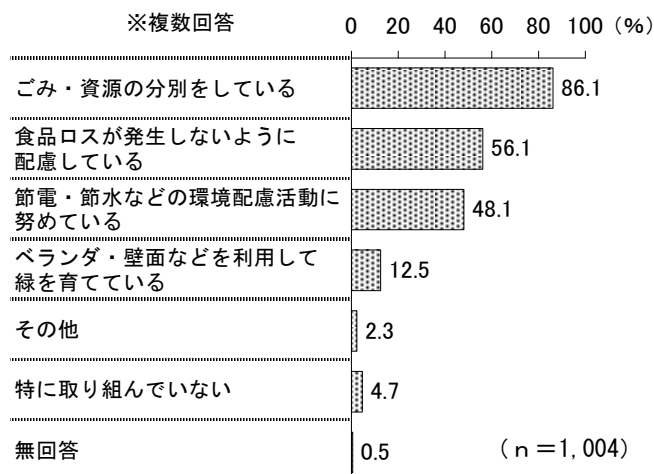
令和2年の調査結果と比較すると、「区のホームページ」は3.7ポイント減少している。



13 環境問題

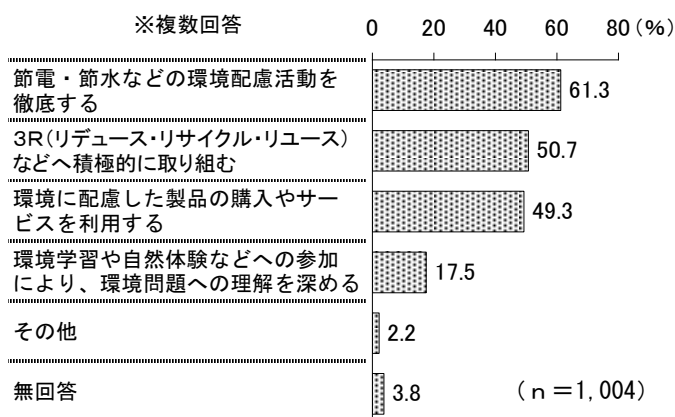
■環境を守るための取り組み

「ごみ・資源の分別をしている」(86.1%)が8割台半ばで最も高くなっている。次いで、「食品ロスが発生しないように配慮している」(56.1%)、「節電・節水などの環境配慮活動に努めている」(48.1%)、「ベランダ・壁面などを利用して緑を育てている」(12.5%)などとなっている。



■今後の家庭での取り組み

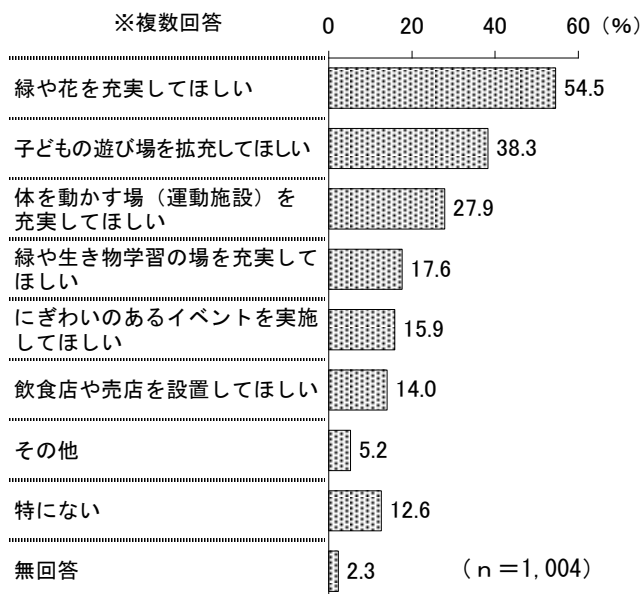
「節電・節水などの環境配慮活動を徹底する」(61.3%)が6割を超えて最も高くなっている。次いで、「3R(リデュース・リサイクル・リユース)などへ積極的に取り組む」(50.7%)、「環境に配慮した製品の購入やサービスを利用する」(49.3%)、「環境学習や自然体験などへの参加により、環境問題への理解を深める」(17.5%)などとなっている。



14 公園の魅力向上

■今後の区立公園のあり方

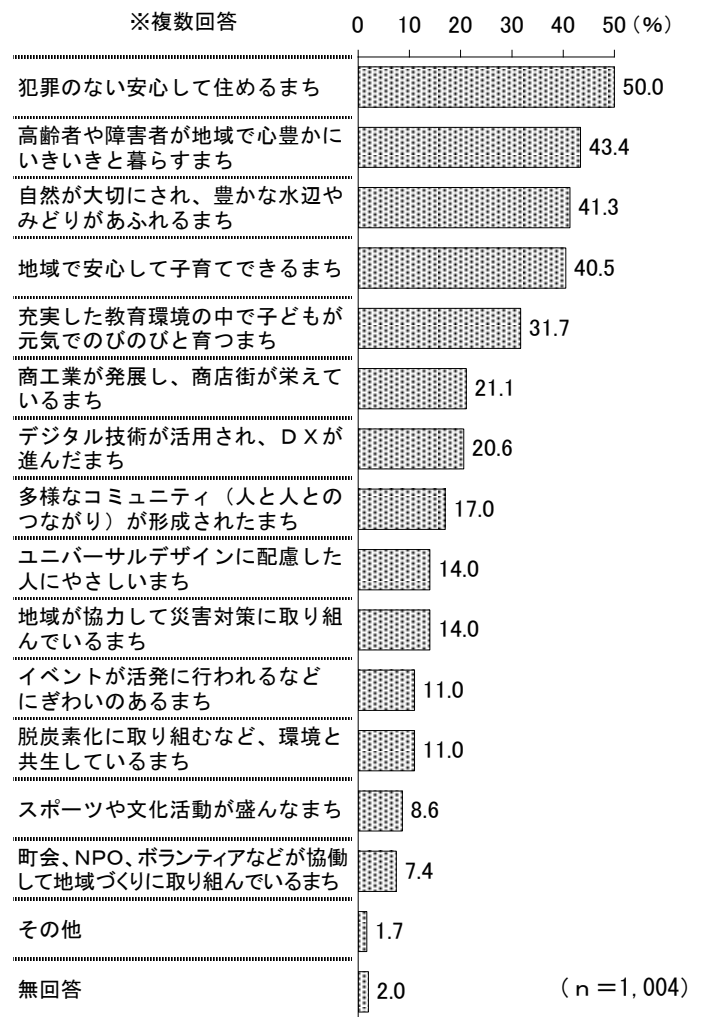
「緑や花を充実してほしい」(54.5%)が5割台半ばで最も高くなっている。次いで、「子どもの遊び場を拡充してほしい」(38.3%)、「体を動かす場(運動施設)を充実してほしい」(27.9%)、「緑や生き物学習の場を充実してほしい」(17.6%)、「にぎわいのあるイベントを実施してほしい」(15.9%)、「飲食店や売店を設置してほしい」(14.0%)などとなっている。



15 今後のまちづくり

■ 10年後の中央区が「どのようなまち」になっていると良いか

「犯罪のない安心して住めるまち」(50.0%)が5割で最も高くなっている。次いで、「高齢者や障害者が地域で心豊かにいきいきと暮らすまち」(43.4%)、「自然が大切にされ、豊かな水辺やみどりがあふれるまち」(41.3%)、「地域で安心して子育てできるまち」(40.5%)、「充実した教育環境の中で子どもが元気でのびのびと育つまち」(31.7%) などとなっている。



16 施策の要望・評価

■区の施策の満足度

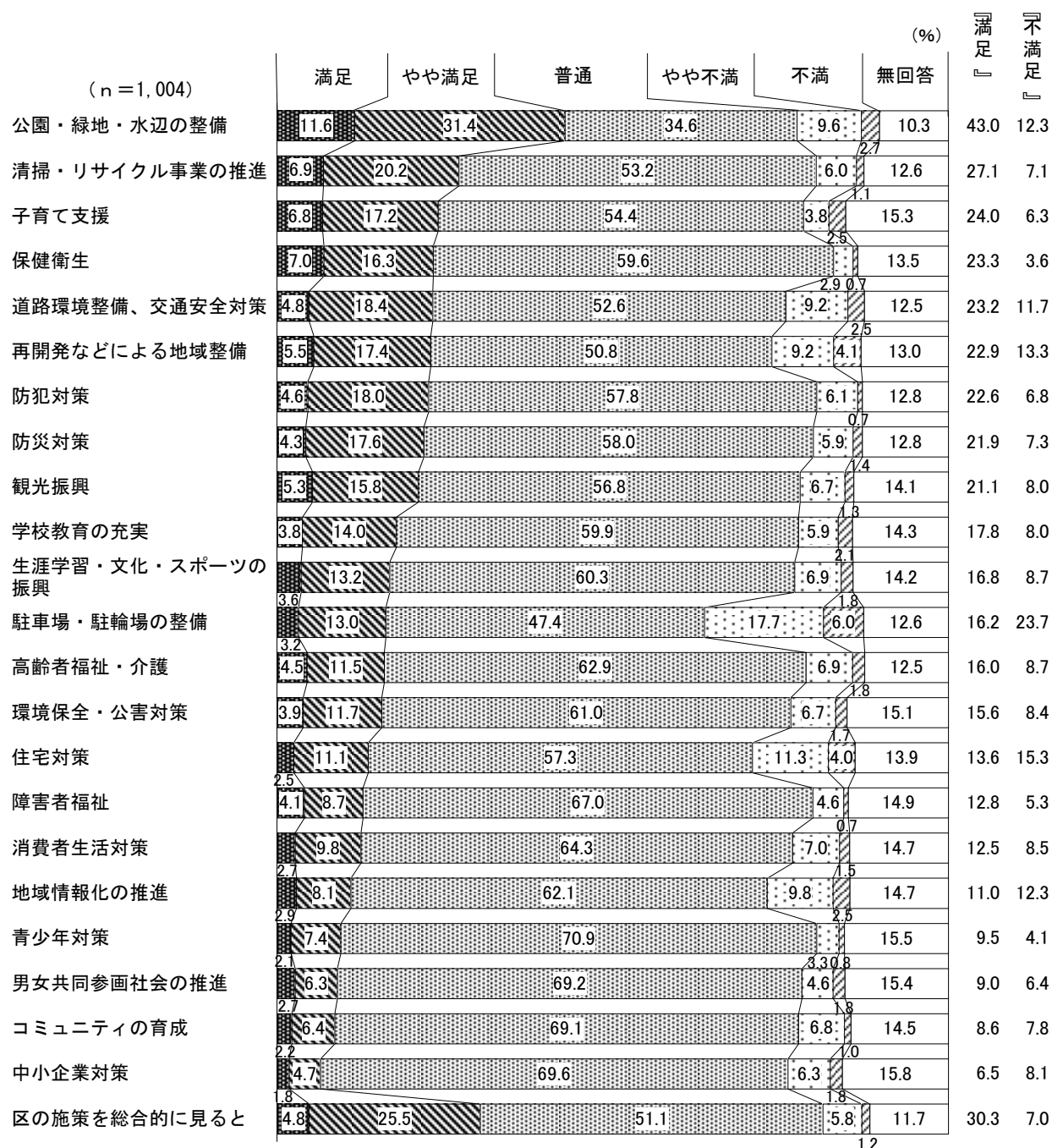
「満足」と「やや満足」の合計を『満足』とし、「やや不満」と「不満」の合計を『不満足』とした場合の、それぞれの上位5項目は次のようになっている。

『満足』

- ①公園・緑地・水辺の整備 (43.0%)
- ②清掃・リサイクル事業の推進 (27.1%)
- ③子育て支援 (24.0%)
- ④保健衛生 (23.3%)
- ⑤道路環境整備、交通安全対策 (23.2%)

『不満足』

- ①駐車場・駐輪場の整備 (23.7%)
- ②住宅対策 (15.3%)
- ③再開発などによる地域整備 (13.3%)
- ④公園・緑地・水辺の整備 (12.3%)
- ④地域情報化の推進 (12.3%)



■区の施策の重要度

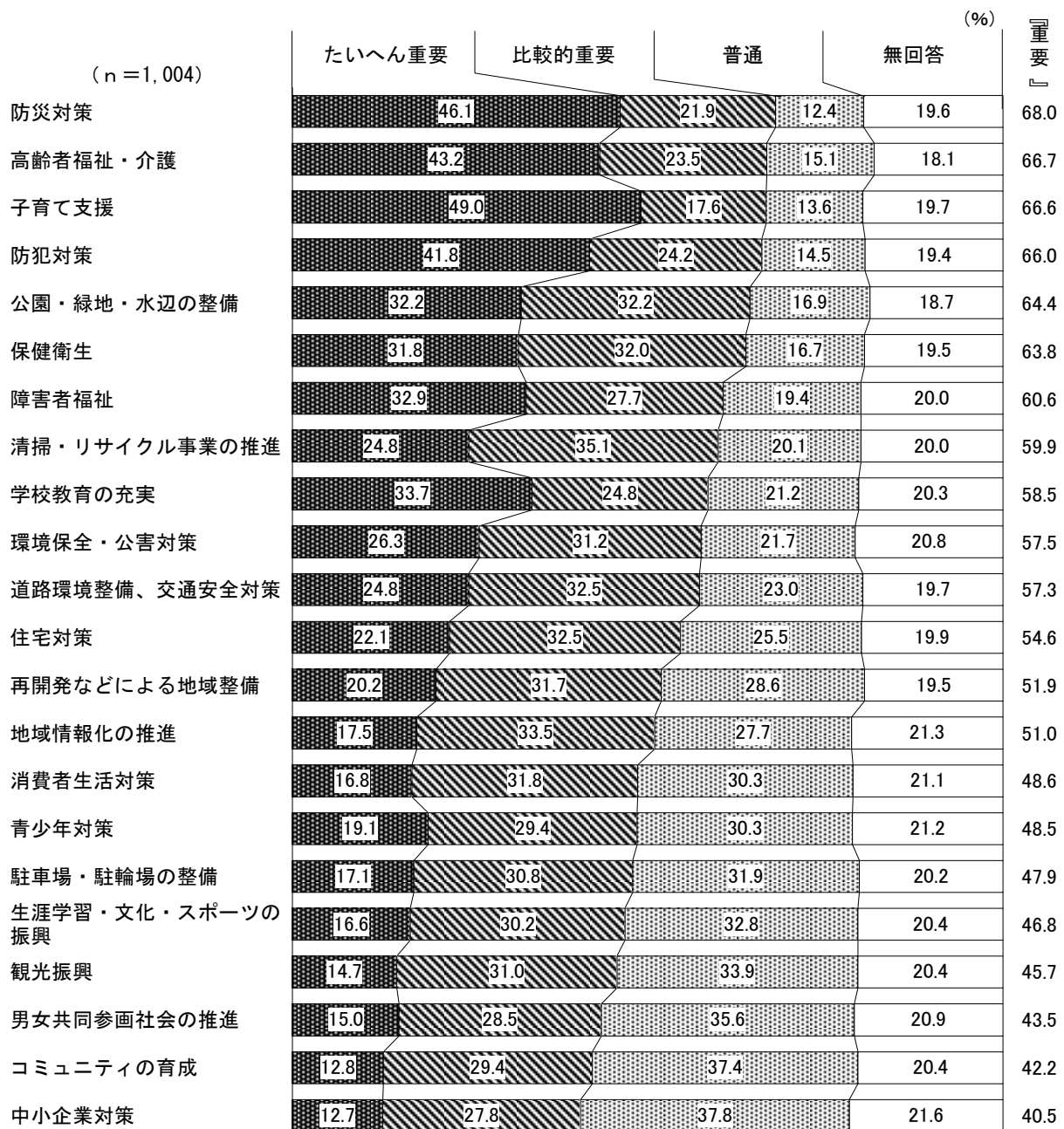
「たいへん重要」と「比較的重要」の合計を『重要』とした場合の、上位5項目と下位5項目は次のようになっている。

上位

- ①防災対策 (68.0%)
- ②高齢者福祉・介護 (66.7%)
- ③子育て支援 (66.6%)
- ④防犯対策 (66.0%)
- ⑤公園・緑地・水辺の整備 (64.4%)

下位

- ①中小企業対策 (40.5%)
- ②コミュニティの育成 (42.2%)
- ③男女共同参画社会の推進 (43.5%)
- ④観光振興 (45.7%)
- ⑤生涯学習・文化・スポーツの振興 (46.8%)



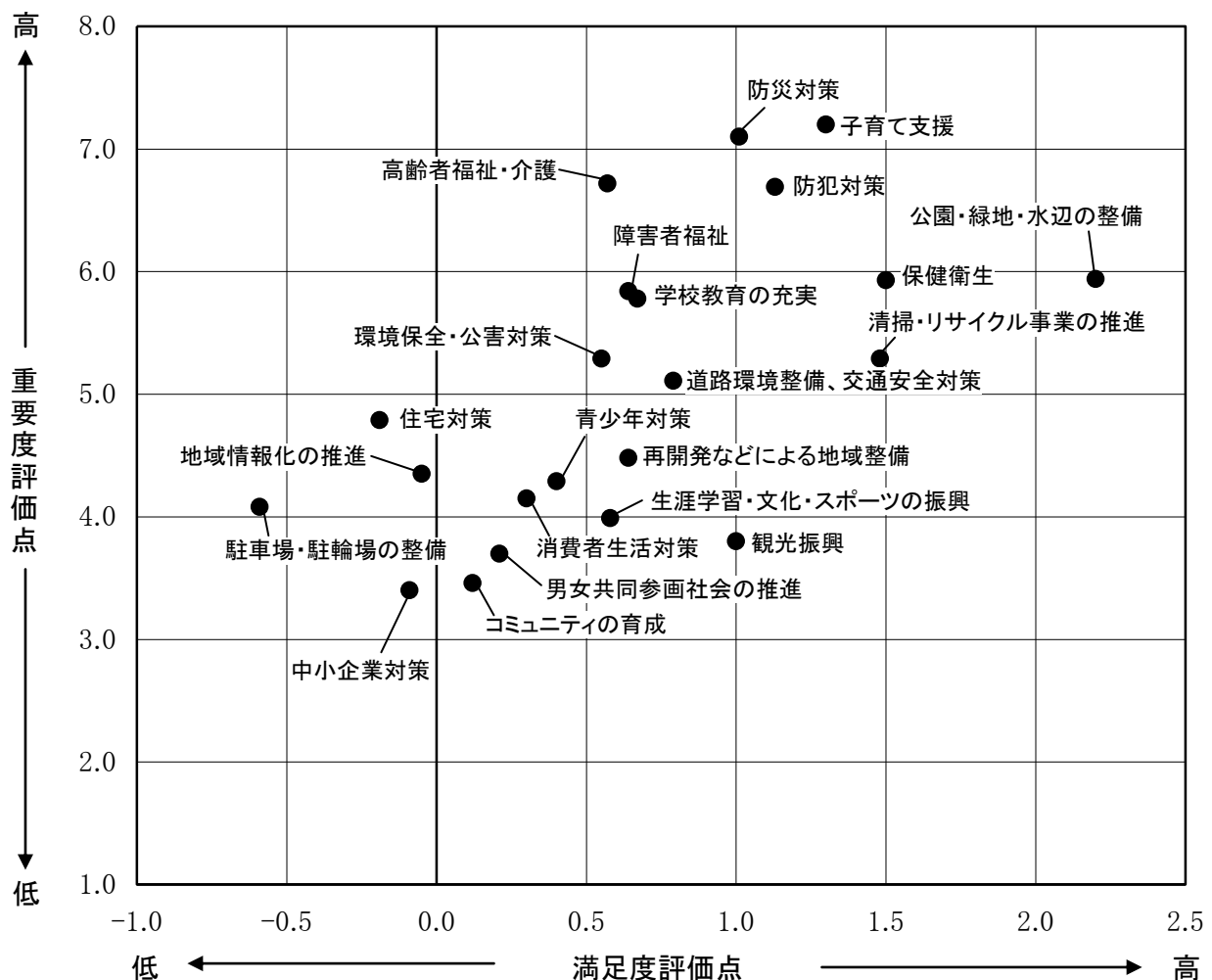
■ 区の施策の満足度と重要度の相関

次の図表は、加重平均値による満足度評価と重要度評価を相関させた散布図である。横軸が満足度評価点、縦軸が重要度評価点になっている。それぞれの算出方法は以下の通りである。

$$\text{満足度評価点} = \frac{(\text{「満足」の回答者数} \times 10 \text{点} + \text{「やや満足」の回答者数} \times 5 \text{点} + \text{「普通」の回答者数} \times 0 \text{点} + \text{「やや不満」の回答者数} \times \blacktriangle 5 \text{点} + \text{「不満」の回答者数} \times \blacktriangle 10 \text{点})}{(\text{回答者数} - \text{無回答者数})}$$

$$\text{重要度評価点} = \frac{(\text{「たいへん重要」の回答者数} \times 10 \text{点} + \text{「比較的重要」の回答者数} \times 5 \text{点} + \text{「普通」の回答者数} \times 0 \text{点})}{(\text{回答者数} - \text{無回答者数})}$$

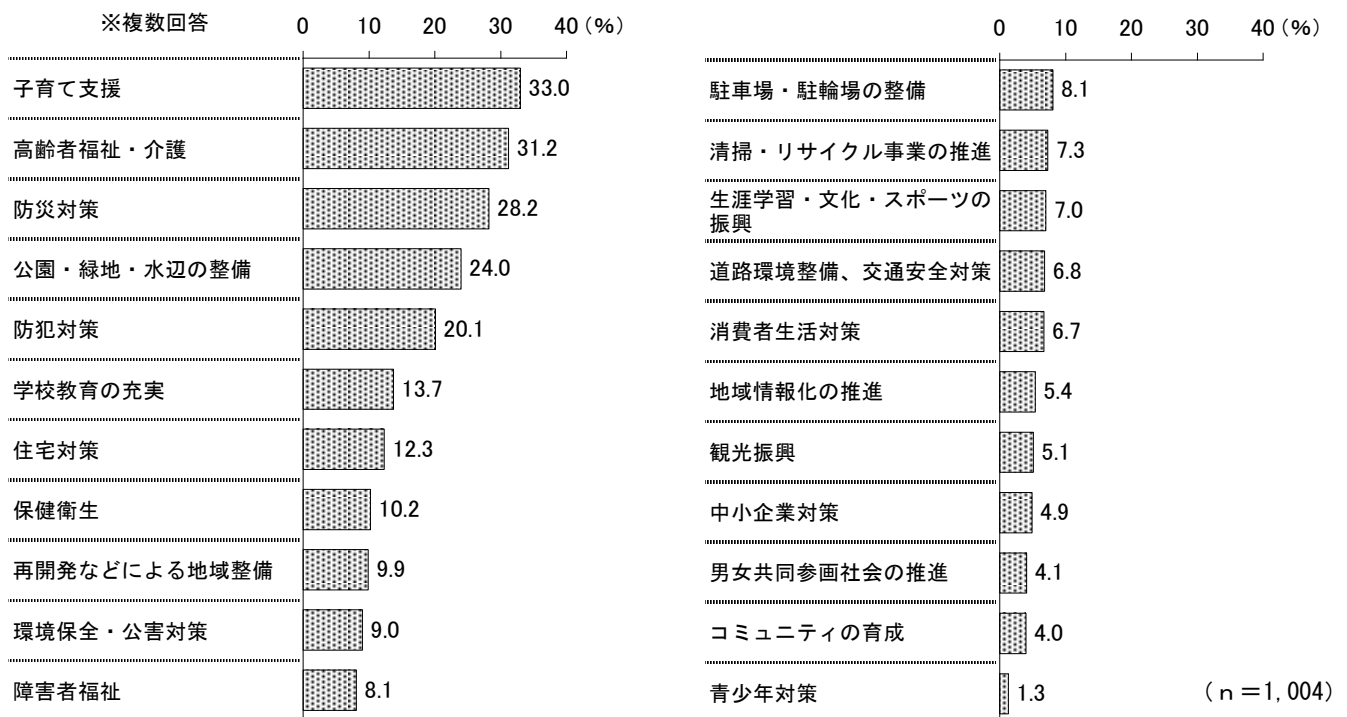
このグラフでは、満足度評価が低く、重要度評価が高い領域（左上方）にある項目が比較的住民ニーズが高いもので、今後の行政課題となるものと考えられる。



■ 区の施策への要望

「子育て支援」(33.0%)と「高齢者福祉・介護」(31.2%)がともに3割を超えて高くなっている。次いで、「防災対策」(28.2%)、「公園・緑地・水辺の整備」(24.0%)、「防犯対策」(20.1%)、「学校教育の充実」(13.7%)などとなっている。

昨年の調査結果と比較すると、「防災対策」は4.5ポイント、「公園・緑地・水辺の整備」は3.3ポイント、それぞれ増加している。一方、「学校教育の充実」は3.3ポイント減少している。



第52回 中央区政世論調査

令和4年9月

発行 中央区企画部広報課
中央区築地1丁目1番1号
03(3546)5222(直通)

実施 株式会社エスピー研
千代田区飯田橋3丁目11番20号
03(3239)0071(代表)

刊行物登録番号
4-038